

設楽の城砦めぐり

SHUNSU

— おおだいらじょう
大平城編 —



大平城址と小鷹城址

大平城は東納庫の名倉川左岸に合流する、大平沢川の上流三〇〇メートル右岸に、突出した舌状台地の先端に築かれた平山城である。

城の北側は二〇メートル下の大平沢川に急斜面が続き、東と西側は深い自然の谷で断崖となっている。

城址にあった大蔵寺末寺の善久寺は、明治初年に破却され、昭和三十年代に牧草地造成で、南の山地境にあった堀切と土塁を失った。その後ゴルフ場ができ、二段の曲輪もひと平らに造成され、遺構は消滅してしまった。

城の旧態を知ることがは難しく、北西七〇〇メートルに位置する湯谷城と、立地や縄張り が似ていたと推測できる。

城主は不明であるが、この城の南西に築かれた小鷹城が、詰の城と言われるため、名倉奥平氏の城と考えられる。

(愛知県文化財保護指導委員)

加藤 博俊